

(別添)

世界の人びとのための JICA 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	「フィリピン：セブの貧困層からリーダー育成！ 貧困問題の根本的解決を目指して」
(2) 実施団体名	国際ボランティア非営利団体 DAREDEMO HERO
(3) 実施期間	2018年6月1日から2019年1月31日まで
(4) 実施国	フィリピン共和国
(5) 活動地域	セブ島
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>フィリピンは絶対的な貧富の差があり、あらゆる制度が富裕層に有利に動いています。その中で貧困問題を根本的に解決するためには、貧困の苦しみを知る貧困層がリーダーとなってこの国を変える必要があります。そして貧困層がリーダーとなるために必要なものが「教育」です。</p> <p>フィリピンの公立学校は無料ということになっていますが、学期の始めに文房具を揃える必要があり、そのお金を用意できず学校に行くことができない子どもが多くいます。また給食の制度がないため、昼食を用意できない子どもは空腹で授業に集中することができません。家にパソコンがないため課題を提出できない子どももいます。当団体は勉強したい子どもたちが、貧困のために頓挫することがないように、給食の提供、学習環境の整備、補習授業、奨学金の支給等で支援しています。</p> <p>具体的には、セブ島に住む、勉強がしたくても貧困がゆえに勉強ができない子どもたち 44 名を支援し、この国の貧困問題を解決するリーダーを育成するための教育支援を行っています。また、奨学生たちは家庭で十分な食事をとることができないため、毎日無料で昼食の提供を行っています。1 日一食でも栄養バランスの取れた食事をとることで、子どもたちの健康状態は改善し、学習効率をアップすることにもつながります。</p> <p>団体設立から5年が経ち、設立当時から支援する奨学生の多くが校内で成績優秀者として表彰され、なかにはセブで有数の進学校に奨学金をもらい進学をした奨学生も複数います。当団体の支援を受け、奨学生たちは着実に未来のリーダーとして成長をしています。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>活動資金の一部を援助していただくことで、現在 42 名の奨学生を 50 名に増やし、規模を拡大したいと考えています。また活動資金を貯め、5 年以内に新しいヒーローズハウスを設置し、他の地域の学びたいけど学べない貧困層の子どもたちにも教育の機会を提供したいと思っています。</p>

2. 業務実施結果：

(1) 実施した内容*

【1. 毎日の昼食の支給】

44人の奨学生に対して、毎日無料の昼食を提供しました。事業開始前はご飯におかず一品の質素な食事でしたが、事業開始後野菜を中心としたおかず二品に果物を添えたメニューに変更しました。

【2. 毎日の補習授業】

毎日放課後に奨学生は HERO'S HOUSE に立ち寄り、宿題や予習復習を行いました。教員資格のあるスタッフが2名、さらに教員課程を卒業したスタッフが3名在中し、奨学生の学習サポートを行いました。

【3. 週末、夏休み等の特別授業】

4月から6月の夏休み期間は毎日、英語・数学・日本語の3教科を中心にそれぞれのレベルにあった特別授業を行いました。週末の特別授業では、学校の授業では補うことのできない細かな指導を行い、理解度の高い奨学生に対してはより高度な学習を、理解度の低い奨学生に対しては、底上げ的な指導を行いました。

また、今年シニアハイスクールに入学した4名の奨学生に対しては、入学前2か月間英語の特別レッスンをを行い、私立の授業に対応できる英語力をつけさせました。

【4. 訪問する日本人との異文化交流】

日本から訪問するボランティアと、学んだ日本語で交流をしたり、日本の文化を教えてもらいました。

【5. 社会を学び、構成員の絆を深めるための集団活動】

今年も盆踊り大会に参加し、国歌斉唱、盆踊りのレモンストレーションを行いました。クラシックコンサートやマジックショーを見学、また当団体主催のボランティア活動にも参加しました。

【6. 学用品の支給】

44名の奨学生に対して、制服ワンセット、通学用の靴、新学期に必要な文具一式を支給しました。また、日常的に必要なペンやノートは必要に応じて支給しました。宿題や課題に必要な絵の具や厚紙、のりやハサミは常時 HERO'S HOUSE で使えるように準備しています。

【7. 新奨学生の選抜】

5月に新奨学生の選抜を行い、200人以上の応募者の中から5名の新奨学生を選抜し、支援しています。

(2) 実施成果：

【1. 毎日の昼食の支給】

栄養バランスの取れた健康的な食事のおかげで、事業開始時と事業終了月の体重は平均して3キロ増加しました。もともと野菜嫌いの奨学生が多かったのですが、工夫を凝らした野菜料理を提供し、全員が野菜を残さずに食べられるようになりました。また、安定した食事供給により健康状態も改善し、奨学生たちの集中力や学習意欲も向上したため、奨学生の成績向上につながりました。

具体的には、事業開始前の昨年2月に実施した健康診断では19名の奨学生が、何らかの検査や治療、投薬が必要な状態でしたが、事業終了月1月に実施した健康診断では、治療や投薬が必要な奨学生はいなくなりました。特に貧血に関しては、ほぼ全員が改善しました。

※詳細は別紙名簿に記載

【2. 毎日の補習授業】

毎日学校で分からなかったことを復習することができ、さらに宿題もしっかりと提出することができたため、奨学生の成績はさらに良くなりました。セブで一番レベルの高いフィリピン大学付属高校に通う奨学生は、学年トップの成績を収めました。次いで有名な進学校であるサイエンスハイスクールに通う奨学生も学年トップ5に入っています。そのほかにも27名の奨学生が成績優秀者として表彰されています。

【3. 週末、夏休み等の特別授業】

公立学校の授業では学ぶことのできない難易度の高い授業も行っており、そのおかげで4名の奨学生がセブで難関私立大学とされるサンカルロス大学付属シニアハイスクールに合格することができました。週末の特別授業ではタブレットを使ったシステムを構築し、それぞれのレベルにあった学習ができるようになり、より効率的に学習ができるようになりました。

【4. 訪問する日本人との異文化交流】

1年間で300人を超えるボランティアが訪問し、奨学生に日本語や日本文化を教えてくれました。アウトプットとインプットを繰り返すことにより、日本語の学習効率も向上しています。今年は奨学生のうち5名が日本語検定試験5級を受験する予定です。様々な日本文化について、ご紹介いただくことで、日本研修旅行に参加した4名は、文化の違いに戸惑うことなく、学び多い研修旅行を行うことができました。

【5. 社会を学び、構成員の絆を深めるための集団活動】

盆踊り大会では2万人を超える観客を前に、堂々とパフォーマンスを行い、奨学生はさらに自信をつけることができました。コンサートやショーでは社会的なルールを学び、ボランティア活動では人のために奉仕する心を学びました。

【6. 学用品の支給】

通学に必要な学用品を全て支給しているため、奨学生は安心して学校に通うことができました。学用品の不足などによるドロップアウトも出ず、全員が毎日元気に通学できています。宿題や課題に必要

な文具も随時提供しているため、提出率もよく、それらが好成績につながっています。

【7. 新奨学生の選抜】

勉強に対する意欲があり、夢と目標を明確に持った子どもを見つけることは簡単ではありません。また、高学年になると意識がそれてしまい、学業に専念しない奨学生も出てきます。その場合は、本人に確認の上、キックアウトの処分をしています。今年も1名キックアウトとなり、目標の50名には達していません。

今年も面接を行い、意欲はあるが貧困が故に学校に通い続けることが困難な子どもたちを5名採用して、目標の50名を達成したいと思います。

（3）得られた教訓など：

これまでフィリピンの標準的な昼食として、ご飯とおかず一品の食事を提供してきました。今回の事業でメニューを改善するにあたり、奨学生の食生活を調査すると、家庭でも野菜や果物を口にしていない子どもたちが大半でした。当団体が提供する昼食が、奨学生の身体づくりと健康維持のために大きな役割を果たしていることを再認識できました。子どもたちにとって食事は非常に重要であり、健康状態の改善が学習意欲にも直結し、さらに成績にも反映されることを確信しました。

子どもたちにより健康的で栄養バランスの取れた食事を提供するためには、新鮮でリーズナブルな食材調達が必要となり、そのためには少し遠く、時間がかかっても、ダウンタウンの市場での買出しが最善の策であることが分かりました。

これまでも子どもたちの学校の宿題で、お金がなければ取り組めないものがあることは認識していたが、学年が上がるにつれ、そのような課題が増えています。本事業によって提供した奨学金の使い道を調べたところ、100%の奨学生が奨学金の一部、もしくは全額を学校の課題や印刷に使っていました。さらに、学校主催のイベント時には、おそろいのTシャツを買ったり、備品の購入のための集金があったりします。そちらに奨学金を活用した子どもも多かったです。子どもたちが「お金がないから宿題ができない」「お金がないから学校のイベントに参加できない」という状況にならないように、注意深く見守る必要があると感じました。

これらの宿題やイベントへの参加が、成績にも直結しています。簡単に言ってしまうと、お金がなければいい成績をとることができないのです。このようなシステム自体に問題はありますが、今の私たちにできることは、このシステムに疑問を抱きながら育った奨学生が、将来このシステムを変えてくれる人材になるよう育てていくことです。

（4）今後の活動・フォローアップの方針：

これまで通り子どもたちへの食事と奨学金の提供を続けます。今回学んだ食材調達方法で、少ない予算の中でもより健康的な食事を提供できるよう努力します。予算の確保のために、地元セブのフィリピン人や企業とのつながりを積極的に持ち、日本からの支援だけに頼らず、フィリピンからの支援も得られるように努めていきます。同時に日本からのご支援を増やすための広報活動にも力を入れていきます。

今回のJICA基金活用事業で、食事による子どもたちの心身、学習面での成長が証明されています。これらの実績をもとに、当団体の支援の必要性を既存のご支援者様に訴え、ご支援の継続をお願いするとともに、SNSを多用し、新たな支援者を募っていききたいと思います。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

フィリピンの学校では、午前と午後にスナックタイムがあります。学年にもよりますが、授業が早朝6時に始まるクラスもあり、昼食までに子どもたちがお腹を空かせてしまうからです。これまで子どもたちは、ジャンクフードや甘いパンをおやつとして食べていました。それらが一番安く購入できるからです。

フィリピンの貧困層の中で、肥満が問題になっています。それは単純に食べすぎなのではなく、大量のご飯に少しのおかず、野菜や果物ではなくジャンクフードや甘いパンを食べているからです。当団体の子どもたちも以前はそのようなスナックを食べていましたが、昼食にフルーツを提供すると、それらをスナック用にキープし、おやつの代わりに食べるようになりました。フィリピンでバナナ以外のフルーツは高級品ですので、貧困層は普段口にすることができません。支給したフルーツを嬉しそうに学校に持っていく子どもたちの姿が印象的でした。

(2) 活動の写真

【1. 毎日の昼食の支給】



【2. 毎日の補習授業】



【3. 週末、夏休み等の特別授業】



【4. 訪問する日本人との異文化交流】



【5. 社会を学び、構成員の絆を深めるための集団活動】



【6. 学用品の支給】



【7. 新奨学生の選抜】



(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

今回初めてこのような形で基金をいただき、事業を行いました。予算の都合により、これまではフィリピン基準でごはんにおかず一品のメニューを続けていました。しかし、今回の受託事業により、日本の食事に近い野菜や果物を取り入れたメニューに改善することができました。改善してみて初めて、バランスの取れた食事が子どもたちの心身、学習面の成長に直結することに気づきました。

また、食材調達方法なども既存の方法から試行錯誤を行い、より良い方法にたどり着くことができました。事業開始前はリスクを恐れ、新たな方法や手段を取り入れることができなかつた部分がありましたが、今回の事業を通じてより良い支援のためには、常に新しい方法と手段を取り入れ、改善をしていく必要があることを学びました。

奨学金の支給に関しては、子どもたちが自分たちで学習に必要な文具や教材を購入することで、様々なことを学んだようです。これまでは現金の支給は、親の嗜好品や学習以外に使用される可能性があるため、極力避け、必要な際に必要な物を支給するシステムをメインとしてきました。確実性で言えば、この方法も間違いではありませんが、子どもたちが物の価値を理解し、計画的にお金を使うことを学ぶためには奨学金（現金支給）も大きな意味があると学びました。

事務作業では、これまでこのような受託事業の経験がなかったため、レシートの保管から報告書の作成まで、様々なことが初めてで戸惑うこともありました。しかし、特に収支の取り扱いに関してはスタッフとして学ぶことが非常に多かったです。フィリピンということによって日本と形式やルールが違う中、どのように求められている内容に近づけるか、大変でしたが今後の受託事業を行うにあたり、非常に重要な経験でした。